

# 令和5年度 施策評価表(令和4年度決算評価)

施策名：地域コミュニティ・学び  
 施策番号： 01 - 01

## 1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	01	地域コミュニティの醸成・生涯学習の推進
主担当局	総合政策局				

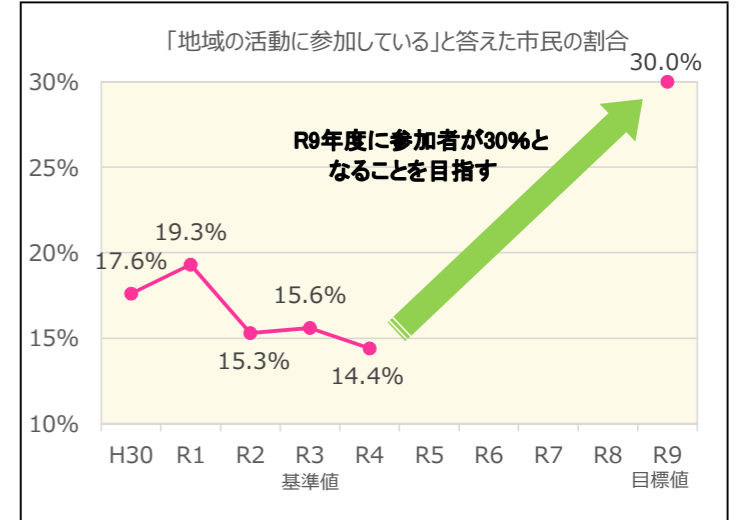
## 2 目標指標

指標名	方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
					H30	R1	R2	R3	R4
A 「生涯学習活動が地域活動につながった」と感じている市民の割合	↑	7.1	%	13.1	—	—	—	7.1	13.3
B 「地域の活動に参加している」と答えた市民の割合	↑	15.6	%	30.0	17.6	19.3	15.3	15.6	14.4
C 「講座などに参加して学んだことを地域や社会のために生かしたい」と考えている参加者の割合	↑	78.1	%	90.0	—	—	—	78.1	81.2
D 地域の小中学校で行事やボランティア等に参加したことがある人の割合	↑	24.7	%	30.0	23.6	25.5	20.4	24.7	26.9
E 市民1人あたりの貸出冊数	↑	3.15	冊	5.87	3.23	3.23	2.78	3.15	3.00

## 3 主要事業一覧

令和5年度 主要事業名	
1	市民が利用する公共施設でのフリーWi-Fiの提供(各地区生涯学習プラザ指定管理者管理運営事業等)
2	園田東会館予防保全事業(生涯学習プラザ等整備事業)
3	大庄西中学校跡地活用等整備事業
4	地域振興にかかる各種支援制度等の見直し(地域団体活動促進事業)
5	
令和4年度 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	
令和3年度 主要事業名	
1	地域資源情報公開システム事業(地域情報共有サイト(あましえあ))
2	図書等購入事業(電子書籍購入事業)
3	学びと活動の情報一元化による効果的な運用・発信
4	
5	

## 4 参考グラフ等



## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和4年度実施内容を記載)	
<p><b>【多様な主体による地域発意の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり】</b>  <b>(目的)</b> 多様な主体同士が情報共有や相互理解を深めるような場づくりを進め、地域の課題解決や魅力向上の取組が地域発意で行える地域社会づくりを目指す。  <b>(成果)</b> ①地域課は、地域の多様な主体がつながり、地域課題を共有し解決に向けて学ぶプラットフォームの運営に取り組んでおり、中央では、より多くの方々の参加を目指しプラットフォームのリニューアルを行うとともに、参加者からの津波避難の相談をきっかけとして講座の開催等を実施した。また、新たに園田において定期開催のプラットフォームが始まったことで、地域課主催のプラットフォームが全地域に設置された。                  ②市民活動の初動を支援する補助金と市民運動各地区推進協議会への年間事業補助金の2つの補助金について、地域特性に応じたより効果的な支援を可能とするよう、地域で予算配分を決めることができる仕組みを整えた。                  ③地域情報を分野やエリアごとに検索できる地域情報共有サイト(あましえあ)の活用検討や、地域担当職員の地域とのつながりを可視化し地域資源とのつながりを把握・共有するための仕組みを整備した。                  ④地域活動への参加を促す第一歩として、地域とつながることの大切さを広く伝えるため、令和4年9月号の市報において、防災、子ども食堂等をテーマに自治会等の取組を紹介する特集記事を掲載した。  <b>(課題)</b> ①プラットフォームについては、地域への定着を目指す一方、新たな話題や出会いが生まれるよう、適宜、開催方法等の見直しを図っていく必要がある。(目標指標B)                  ④尼崎市社会福祉協議会における地域活動の担い手の高齢化、自治会不在の地域への対応といった課題がある中、若い世代の活動者を増やすための取組が必要である。(目標指標B)</p> <p><b>【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】</b>  <b>(目的)</b> 学びたい思い、取り組んでみたい思いを支援し、ひと咲きプラザや生涯学習プラザをはじめ、まちのいたる所で学びや活動が創出されることを目指していく。  <b>(成果)</b> ⑤生涯学習審議会において、地域課だけでなく、教育委員をはじめ、文化、スポーツなど施策01を推進する各部局等が集まり、共に「生涯、学習！」を進めるための意識の共有を図った。また、地区別に振り返る仕組みを構築し、各地区で共通して振り返る項目を設定したことにより、例えば「人権尊重・平和学習」の項目では、小田地区で開催したイベントにおいて、LGBTQ+は事業所や学校の関心が高いテーマと再認識できたことから、各地区の取組に発展し学びの機運が高まった。(目標指標A・B・C)                  ⑥プラットフォームから派生し、みんなの尼崎大学(尼大)部活動が活性化(軽音部は音楽祭、演劇部は小説尼崎ストロベリーの舞台化)など、フラットな相談の場から学びや活動につながる事例が生まれている。また、各地区での相談を把握し全体的資源につなぐ、仲間を募集中の活動を取材し全市民的に紹介する(新歓情報)など尼大の地域をつなぐハブ機能の強化により、相談者の活動の幅が広がる事例が増えた。                  ⑦みんなのサマーセミナーや市民まつりといった全市民的行事について、3年ぶりに現地開催ができた。制限がある中ではあったが、コロナ禍を乗り越えての開催であったことで、新たな取組や高校生などの新たな人達の参加が生まれた。  <b>(課題)</b> ⑤⑥体験や学びが自己の成長や生きがい、まちの課題解決にもつながっていくといった「生涯、学習！」、本市に関わる人みんなが「尼大生」といった基本理念が市民に浸透するように、更に取組を進めていく必要がある。                  ⑤生涯学習プラザの貸室や図書といった日常利用の中から、新たな学びや活動につながるよう、施設運営上の工夫が必要である。</p> <p><b>【地域と学校の連携・協働の推進】</b>  <b>(目的)</b> 地域の方々の経験や学習の成果を活かすとともに、学校を核とした活動を通じて地域のつながり、教育力の向上を図る。  <b>(成果)</b> ⑧尼崎北小学校では地域資産に着目した学習を様々な主体に協力を得て実施するとともに、立花地域課による大学のゼミ生と市民グループの活動コーディネートにより、更に学習の充実が図られた。これらの同校の地域との連携に係る取組が文部科学大臣表彰を受賞した。また、高等学校にコミュニティ・スクールを導入し、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進を図るため、小学校と同様にコーディネーターを配置した。中学校においては、令和5年度より順次、コミュニティ・スクールを導入するにあたり、これまでの中学校区健全育成協議会で培ってきた地域との連携を活かし、地域学校協働活動につなげるよう道筋をつけることができた。(目標指標D)  <b>(課題)</b> ⑧保護者や地域住民等に活動の効果や魅力について継続的に情報を発信するとともに、学校管理職、教員に対しては、地域人材の活用が子どもたちの学びの充実や教員の負担軽減につながることに、更に理解を深めてもらえるよう継続して周知を図る必要がある。</p> <p><b>【図書を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書サービス網の充実】</b>  <b>(目的)</b> 資料や情報の提供をはじめとした「知の拠点」として、市民が生涯にわたり学習と交流を行える機会を創出し、豊かな暮らしを実現するための図書サービスの充実を図る。  <b>(成果)</b> ⑨図書館システムを更新し、アプリやLINEからでも本の予約が可能となる等、デジタル面での図書利用サービスを充実し利用環境を整備した。尼崎市立図書館事業計画を策定し、「尼崎市立図書館基本的運営方針」の進行管理を行い、社会教育委員会議にはかった。その結果、年間の目標進捗管理とともに事業の取組のフィードバックを翌年度に反映し、適切に進捗管理ができるようになった。(目標指標E)  <b>(課題)</b> ⑨市民が図書に親しむ機会を創出する施策を実施し、コロナ禍前の水準以上に利用者の増加を図る必要がある。学校や生涯学習プラザといった地域で身近に図書に親しめる場との連携などを含めた取組について検討する必要がある。</p>	

令和5年度の取組	
<p><b>【多様な主体による地域発意の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり】</b>                  ①防災訓練を通して、隣近所とのつながりや助け合いの重要性を経験することで、シチズンシップを育み、地域力の向上を目指す。                  ①地域コミュニティ・学びに関する施策と各施策との連携を深めて課題解決へとつなげるため、地域政策本部会議などを活用し、地域課と各施策の所管課で、相互に課題等の情報共有や意見交換を行う場を新たに設ける。                  ①プラットフォームの開催方法やあり方については、話題が固定化しないよう必要に応じて見直しを行うとともに、そこから多様な連携が生まれるよう地域担当職員が積極的にコーディネートを行う。                  ④プラットフォーム等を通じて新たな担い手の発掘やテーマ型の活動の支援を行う中で、活動者を自治会等の地縁型の地域活動へもつなげていく。</p> <p><b>【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】</b>                  ⑤⑥尼崎の「生涯、学習！」が目指すものや、生涯学習プラザ等で生まれてきた事例等を紹介するよう尼大「大学案内」を市民が参考できる形で作成していく。                  ⑤期限が令和5年度末となる生涯学習プラザ(11館)指定管理者による運営の振り返りを踏まえ、貸室や図書利用手続きといった利用者との接点を更に活かし、利用者の増や新たな学びと活動の創出の強化を図るため、次期指定管理の希望事業者に提案を求め、選定を進めていく。</p> <p><b>【地域と学校の連携・協働の推進】</b>                  ⑧地域学校協働活動の参加者の幅を広げるとともに、活動をより定着させるため、効果等についての情報発信や学校関係者向けの研修を継続して実施する。また、中学校に地域学校協働活動を導入するにあたり、学校運営協議会設置校においては、地域学校協働活動との一体的推進を支援するとともに、学校運営協議会未設置校においても既存の中学校区健全育成協議会事業を活かし、円滑に活動が導入されるよう支援を行う。</p> <p><b>【図書を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書サービス網の充実】</b>                  ⑨学校との連携では、市内小学校に電子図書館のIDとパスワードを付与し、学校での電子書籍の利用の促進につとめる。生涯学習プラザとの事業の連携につとめ、地域での読書推進活動や利用者ニーズに応じた図書サービスの充実を図る。</p>	
主要事業の提案につながる項目	
<p><b>【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】</b>                  ⑤生涯学習プラザ指定管理者管理運営事業費の拡充を検討する。</p> <p><b>【図書を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書サービス網の充実】</b>                  ⑨FM計画に基づく北図書館の整備について具体化を進めるとともに、市内地域バランスを考慮した図書サービス網の充実を検討する。</p>	

## 6 評価結果

評価と取組方針	
<p>・本市に関わる全ての人々がまちへの愛着を感じ、また魅力あふれるまちを目指すにあたっては、「生涯、学習！」の基本理念を一層浸透させるとともに、まちに学びをまき起こすための取組を推進していく。</p> <p>・地域の多様な主体がつながり、地域課題を共有し解決に向けて学ぶプラットフォームについては、活発な意見交換の場となるよう地域担当職員が積極的にコーディネートしていく。また、各地区のプラットフォームから生まれた取組を相互に共有することで、更なる活性化につなげていく。</p> <p>・生涯学習プラザについては、利用者の学びと活動が更に広がるよう地域課と指定管理者が一体となって運営していく。</p> <p>・北図書館の整備の具体化を図るとともに、図書館機能の更なる充実に向けた検討を進める。</p>	

# 令和5年度 施策評価表(令和4年度決算評価)

施策名: 地域コミュニティ・学び  
 施策番号: 01 - 02

## 1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	02	まちの魅力を高める文化芸術活動の推進
主担当局	総合政策局				

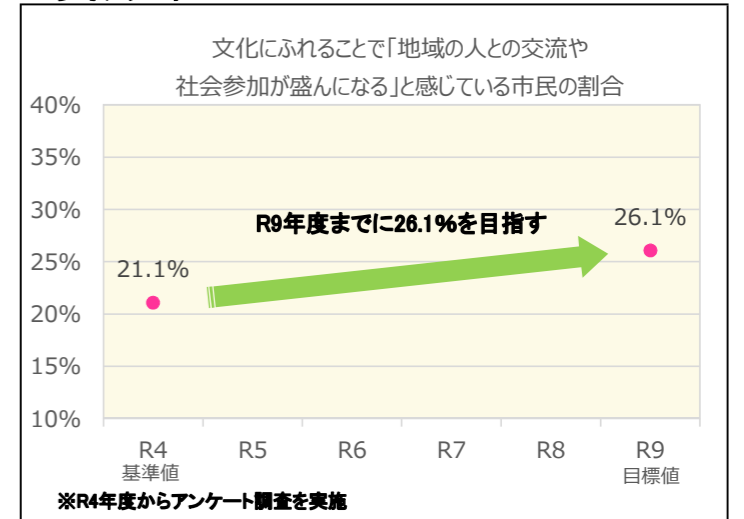
## 2 目標指標

指標名	方向	基準値 (R3)	目標値 (R9)	実績値					
				H30	R1	R2	R3	R4	
A 尼崎市文化振興財団及び本市が実施した文化芸術事業への参加者数	↑	133,807	人	—	287,010	292,057	66,577	133,807	193,309
B 尼崎市総合文化センター稼働率	↑	44.9	%	—	42.5	38.4	24.0	44.9	41.2
C 若者支援を目的とした文化芸術事業への参加者数	↑	4,974	人	5,250	4,369	4,896	4,123	4,974	10,643
D 文化芸術のアウトリーチ事業の回数	↑	58	回	100	50	53	42	58	104
E 文化にふれることで「地域のひととの交流や社会参加が盛んになる」と感じている市民の割合	↑	21.1 (R4)	%	26.1	—	—	—	—	21.1

## 3 主要事業一覧

令和5年度 主要事業名	
1	文化振興体制の再構築
2	大近松300年祭(尼崎市文化振興財団補助金)
3	動画制作・配信事業(尼崎市文化振興財団補助金)
4	白髪一雄生誕100年記念事業
5	ポストコロナに向けたミュージシャン応援事業(文化芸術推進事業)
令和4年度 主要事業名	
1	総合文化センター耐震化事業
2	
3	
4	
5	
令和3年度 主要事業名	
1	尼子騷兵衛作品等資料収集・調査・活用事業
2	若者の夢創造・発信事業(白髪一雄現代美術賞の創設)
3	まちの魅力発信事業(アート@シビック・ロビー事業)
4	
5	

## 4 参考グラフ等



## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和4年度実施内容を記載)	
<b>【文化振興の基盤づくり】</b>	<p>(目的)文化施策の指針である「尼崎市文化ビジョン」に基づき、文化振興の中核である尼崎市総合文化センターとその運営を担う(公財)尼崎市文化振興財団(財団)と連携して文化芸術の学びや活動を推進する。</p> <p>(成果)①「総合文化センター耐震化事業」について、基本設計に着手し、整備内容や手法の検討を進めた。</p> <p>②「尼崎市文化ビジョン会議」において議論し、芸術分野だけでなく人が学び・活動していくことも文化として捉えた「尼崎市文化ビジョン(第2次)」を策定した。</p> <p>③市と財団とが文化施策を推進していくためのパートナーとして、それぞれの強みを生かしながら協働して取り組む体制を強化するため、令和5年度に向けて協議し、委託・補助事業を協働契約に変更した。(目標指標A・B)</p> <p>(課題)①阪神尼崎駅周辺のにぎわい創出の一環として、市内外からの人の流れなども考慮したうえで、文化・芸術活動の拠点として整備を行う必要がある。</p> <p>②「尼崎市文化ビジョン(第2次)」について、施策評価の仕組みを活用しながら評価を行い、取組を推進する必要がある。</p> <p>③財団との協働契約に基づき、課題や目標を共有しながら、ともに主体的に取り組む必要がある。</p>
<b>【夢へのチャレンジを応援する】</b>	<p>(目的)若い人の夢を後押しし、飛躍のきっかけとなる機会を提供することや、年齢を問わず新しいことにチャレンジする人を応援することで、本市が夢へのチャレンジを応援するまちであることを発信するとともに、その活動を広げていく。</p> <p>(成果)④若手アーティストによる先駆的で魅力ある現代美術作品を顕彰する白髪一雄現代美術賞の第1回受賞者の個展・ワークショップを開催し、発表の機会を提供するとともに、市民にその制作体験・鑑賞機会を提供することができた。(目標指標C)</p> <p>⑤文化未来奨励賞や尼崎落研選手権のほか、財団補助事業の各種表彰など、各芸術分野でチャレンジを応援できた。尼崎落研選手権では過去最多の20校より応募があり、全国的に認知を広げることができている。第8回近松賞では受賞作を決定した。(目標指標C)</p> <p>(課題)④白髪一雄現代美術賞は、財団と協働で第2回の選考を進め、令和5年度に受賞者決定と発表準備を進めていく必要がある。</p> <p>⑤各種表彰の中には、若者支援のための賞の位置付けの整理や、歴史の長い賞の応募者の高齢化・減少など、様々な課題があるため、改善方法を検討していく必要がある。</p>
<b>【歴史・文化を受け継ぎ、育てる】</b>	<p>(目的)過去から受け継がれてきた伝統芸能や祭り、本市ゆかりの人物といった様々な歴史・文化について、学び・楽しみながら、それらが守り伝えられ、まちづくりに活かされていくよう、まちの誇りとして育てていく。</p> <p>(成果)⑥令和6年度の白髪一雄生誕100年に向けて、財団と協働で実行委員会の設立準備を進めた。白髪一雄発信プロジェクトは、宮崎県立美術館で実施し、初期作品からアクション・ペインティングの大作まで本市所蔵作品等約70点の展示や白髪氏と宮崎県とのつながりの紹介により、作品や人物像を発信することができた。</p> <p>⑦コロナ禍で中止していた行事の再開を進めることができ、尼崎薪能は2年ぶり、大近松祭(近松記念館開催分)は3年ぶりに開催することで、歴史・文化の継承を担う方々の活動・発表の機会となった。(目標指標E)</p> <p>(課題)⑥白髪一雄生誕100年に向けて、市内外に周知を図る取組や、市民の参画意識の醸成に取り組む必要がある。</p> <p>⑦伝統芸能や祭りを市民とともに守り伝え、活かしていけるよう、裾野を広げるための工夫に取り組む必要がある。</p>
<b>【学び・楽しみ・交流する市民を支える】</b>	<p>(目的)市民が文化・芸術に触れる機会を増やし、文化・芸術を創作・発表できる場づくりを行うことで、学び・楽しみ・交流する市民を支えていく。</p> <p>(成果)⑧アトスペースA-LABでは展覧会を5回開催し、尼崎ゆかりのはしもとみお氏の展覧会では過去最多の7,685人の来場があった。生涯学習プラザ等で開催したワークショップA-LAB GO+では子どもたちに多様な芸術体験を提供することができた。(目標指標A・C)</p> <p>⑨財団による美術・音楽のアウトリーチを学校・生涯学習プラザで実施した。財団が指定管理者として参画している生涯学習プラザでは、総合文化センターの公演や美術展と連動した企画や、文化教室講師によるワークショップを開催し、文化・芸術に触れることができる機会を提供することができた。(目標指標D)</p> <p>⑩令和4年度に市民発意で立ち上がった「みんなの尼崎大学軽音楽部」とともに田能資料館やポートレース尼崎などと一体で「あまがさき春の音楽祭」を開催することで、音楽を通じた学びと活動の場づくりができた。(目標指標A・E)</p> <p>⑪財団の公式YouTubeチャンネルである「アルカイクチャンネル」では、ホール事業を中心に配信を進めた。</p> <p>(課題)⑧⑨⑩市民に身近な場である生涯学習プラザなどを活用した芸術体験の提供や、市民発意の取組や活動の支援など、積極的な地域展開を進める必要がある。</p> <p>⑪オンラインで芸術に触れることができる動画配信を定着させるとともに、配信分野の拡大などに取り組む必要がある。</p>

## 6 評価結果

評価と取組方針	
	<p>・新たに策定した文化ビジョンに基づき、文化・芸術に触れる機会を今後も提供していくとともに、新しいことや夢にチャレンジする人を応援するなど、引き続き文化振興財団とも連携しながら取り組んでいく。</p>

令和5年度の取組	
<b>【文化振興の基盤づくり】</b>	<p>①「総合文化センター耐震化事業」については引き続き基本設計を進める中で整備内容を検討するとともに、事業費等を精査していく。</p> <p>②③協働契約による市と財団の役割分担に基づき、課題や目標を共有しながら、文化振興事業に取り組む。</p>
<b>【夢へのチャレンジを応援する】</b>	<p>④⑤各表彰事業などについて、市と財団で協働で取り組むことで、財団の専門性を生かした発表支援などを行う。また課題を共有し、必要な改善策を協議していく。</p>
<b>【歴史・文化を受け継ぎ、育てる】</b>	<p>⑥白髪一雄生誕100年記念事業のプレ事業として、実行委員会の立ち上げや記念ロゴの募集、紹介映像の作成などを行う。白髪一雄発信プロジェクトは最終年度となる令和5年度をこれまでの集大成として、北九州市立美術館及び新潟県立近代美術館の2館で実施する。</p> <p>⑦多くの市民が興味を持つよう、令和元年度以来となる尼崎城での薪能を開催する。また、大近松祭の節目である300年祭については、例年の演目に近松を題材にした宝塚0Gレヴューショーや記念誌の発行などを加え、より充実した内容で開催する。</p>
<b>【学び・楽しみ・交流する市民を支える】</b>	<p>⑧⑨生涯学習プラザ等を活用したアウトリーチや、学校園へのアウトリーチについて、演劇分野も取り入れるなど、積極的に展開する。また、各地区の生涯学習事業に参画していく。</p> <p>⑩あましんアルカイクホールなどで、尼崎で活動している音楽グループの活動を後押しするための、ポストコロナに向けたミュージシャン応援事業を実施する。</p> <p>⑪「アルカイクチャンネル」の動画配信分野を拡大し、美術系事業や、地域における歴史・文化事業の情報発信を行う。</p>

主要事業の提案につながる項目	

# 令和5年度 施策評価表(令和4年度決算評価)

施策名：地域コミュニティ・学び  
 施策番号： 01 - 03

## 1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	03	歴史遺産の継承と学びの充実
主担当局	教育委員会				

## 2 目標指標

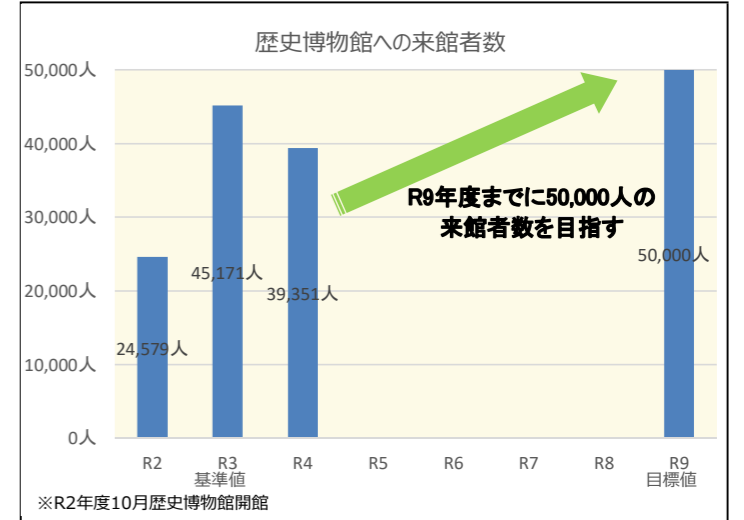
指標名	方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)		実績値				
		数値	単位	数値	単位	H30	R1	R2	R3	R4
A 歴史や文化財等に関するボランティア活動参加延べ人数	↑	881	人	1,762		2,566	1,791	616	881	1,773
B 歴史博物館への来館者数	↑	45,171	人	50,000		—	—	24,579	45,171	39,351
C 歴史博物館・田能資料館主催事業の参加者数	↑	1,023	人	2,046		2,231	1,883	1,045	1,023	1,975
D あまがさきアーカイブズ(地域研究史料室)相談利用(レファレンス)人数	↑	2,293	人	2,345		2,330	1,907	1,623	2,293	2,229
E 学校教育と連携した事業の実施回数	↑	45	回	90		55	53	50	45	59

※歴史博物館の開館(令和2年10月)以前の数値については、前身である文化財収蔵庫等での実績値

## 3 主要事業一覧

令和5年度 主要事業名	
1	文化財保存活用地域計画策定事業
2	デジタルアーカイブの推進(MLA連携推進事業)
3	
4	
5	
令和4年度 主要事業名	
1	歴史的公文書等管理・公開事業
2	
3	
4	
5	
令和3年度 主要事業名	
1	歴史博物館展示事業(歴史博物館特別展事業)
2	
3	
4	
5	

## 4 参考グラフ等



## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和4年度実施内容を記載)	
<b>【魅力ある歴史博物館の運営】</b>	<p>(目的)歴史博物館において尼崎の歴史資料や文化財を積極的に展示・公開し、市民や他都市からの来訪者の尼崎の歴史・文化財に対する関心を高めるとともに、シビックプライドの醸成や観光地域づくりに貢献する。また、市民ボランティアの養成と参画促進に取り組むとともに市民グループとの協働も図り、市民と共に歩む博物館を創出していく。</p> <p>(成果)①尼崎の歴史をわかりやすく伝える常設展示や特別展・企画展のほかSNS等を活用した情報発信に努めた。令和4年度の来館者数は39,351人、公文書館機能であるあまがさきアーカイブズの相談件数は2,229件であった。令和5年1月には開館以来の累計来館者が10万人に達した。田能資料館では常設展示の更新や復元高床倉庫の建替により展示の充実・魅力向上を図った。(目標指標B・D)</p> <p>②ボランティア活動については、新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度に中止した活動を感染症対策に意を用いて活動することで、参加人数を増やすことができた。(目標指標A)</p> <p>(課題)①②引き続き魅力ある展示事業や歴史を学ぶ機会の提供、情報発信の充実を図るため専門職の人材育成に計画的かつ着実に取り組むとともに、歴史博物館の事業活動を支える市民ボランティアの募集と養成に引き続き取り組む必要がある。また、歴史博物館への来館者数が減少傾向にあることから、目標を達成するため、魅力ある展示事業を行っていく必要がある。</p>
<b>【歴史遺産の保存と活用】</b>	<p>(目的)文化財や歴史資料等の収集・調査・整理を進め、地域資産として有効活用できるように保存・公開することにより、地域の歴史を学ぶ環境づくりを進める。また、歴史遺産を保存し活かす活動に取り組む市民グループ等との連携・協力を進め、地域の歴史遺産の保存・活用を図る。</p> <p>(成果)③貴重な歴史遺産であるユニチカ記念館の保存・活用を図るため令和5年3月に土地・建物を取得した。</p> <p>④このほか埋蔵文化財の確認調査を実施するなど文化財保護の推進に取り組んだ。</p> <p>⑤文化財を守り伝え活かしていくための仕組みとして新たに文化財保存活用基金を設置した。講座・体験学習などの市民向けの事業については社会情勢を鑑み、感染症対策を行いながら実施した。(目標指標C)</p> <p>(課題)③新たに取得したユニチカ記念館については、保存活用に向けて全庁的な連携を図るなかで検討を進めていく必要がある。併せて寄贈を受けた尼崎紡績関連の資料等について保存及び整理、公開が必要である。</p> <p>④こうした市民の貴重な財産である文化財を保護し後世に伝え活用する取組を着実かつ計画的に推進していくことが求められている。</p> <p>⑤文化財保存活用基金については、適切な運用と市内外からの協力を得られるように努める必要がある。</p>
<b>【地域の歴史を学ぶ機会の充実】</b>	<p>(目的)市民や子どもたちが尼崎の歴史・文化財に触れる学習機会や場の充実を図り、身近な地域の歴史・文化財に対する関心を高める。</p> <p>(成果)⑥尼崎の歴史に触れる事業として特別展等と関連したテーマにより記念講演会や市民講座、体験型ワークショップなどを広く市内外の方を対象に通年で実施するとともに、市内外への出講にも積極的に協力した。学校教育との連携では企画展「むかしのくらし・むかしの小学校」等の見学受入や学校への出張授業など歴史学習への支援のほか、新任教員が対象であった歴史博物館での研修を現任教員も対象として実施し充実を図った。また地域の団体から市内の小学校に尼崎の歴史を学ぶデジタル副読本の寄贈を受けるにあたり内容の作成に協力した。田能資料館では引き続き小学校とのオンライン授業に取り組んだ。(目標指標C・E)</p> <p>(課題)⑥新型コロナウイルス感染症の影響により控えられていた市内小学校の見学をはじめ、幅広い市民の利用促進を図る必要がある。</p>
<b>【学びを支える機能の充実と連携促進】</b>	<p>(目的)公文書館機能を備えた歴史博物館として、市の諸活動や歴史的事実の記録である公文書等を将来に伝え、その利用に供するとともに、歴史博物館と図書館等との有機的な連携を図ることで情報資源の収集・蓄積・提供していく機能を高め、市民がより使いやすく親しみやすい施設の実現に努め、市民の学びを支える。</p> <p>(成果)⑦令和4年4月からの公文書管理等条例施行に伴い、歴史的公文書の適切な保存と市民利用制度の運用及び利用促進に努めた。歴史資料の保存と利用者の利便性向上を図るため、歴史的公文書や近世の歴史資料など資料のデジタル化を進めるとともに歴史博物館蔵書データベースの図書館検索システムへの一本化に取り組んだ。市民が歴史を学ぶ場の提供として、引き続き『「尼崎市史」を読む会』を中央図書館・北図書館で開催するほか、歴史博物館・中央図書館・尼崎城による連携イベントを通じた周遊促進を図った。(目標指標C・D・E)</p> <p>(課題)⑦学びを支える施設として博物館、図書館及び公文書館の連携を促進するなか、資料や蔵書の更なる活用と利用者の利便性向上のため、来館しなくても資料を閲覧できる環境整備や資料のデジタル化を継続していくことが必要である。</p>

令和5年度の取組	
<b>【魅力ある歴史博物館の運営】</b>	<p>①特別展「尼崎市指定文化財の精華」や企画展「尼崎紡績-工都尼崎のはじまり-」など時宜を得た魅力ある展示事業の展開に取り組むなど、引き続き市内外からの来館促進やピーター獲得に努めるとともに、専門職の計画的な採用・育成に取り組んでいく。</p> <p>②引き続き市民ボランティアの募集と養成に取り組む。</p>
<b>【歴史遺産の保存と活用】</b>	<p>③ユニチカ記念館の保存活用については、全庁横断的なプロジェクトチームを中心に、市民や専門家などから広く意見を聞きながら検討を進めていく。</p> <p>④文化財の保存と活用に関する総合的な計画である文化財保存活用地域計画について令和7年度の策定に向けた検討を進める。</p> <p>⑤文化財保存活用基金については市内外から協力を得られるよう、ふるさと納税のポータルサイトに掲載し周知を図る。</p>
<b>【地域の歴史を学ぶ機会の充実】</b>	<p>⑥引き続き、市民や学校等への情報発信や連携に努めながら、市民や子どもたちが歴史に触れ学ぶ機会の充実を図っていく。</p>
<b>【学びを支える機能の充実と連携促進】</b>	<p>⑦博物館、図書館及び公文書館機能の連携を図りながら、歴史的公文書及び地域史料の保存と更なる活用のため、デジタル化した資料のWeb公開を進めるとともに、公文書以外の歴史資料についてもデジタル化を進めていく。</p>
主要事業の提案につながる項目	
<b>【歴史遺産の保存と活用】</b>	<p>③ユニチカ記念館の敷地について、市民が憩う広場になるような整備に向け検討を進める。</p>

## 6 評価結果

評価と取組方針	
・ユニチカ記念館については、ワークショップやイベントの開催など利活用を進めるとともに、地域活性化や観光地域づくりなどまちづくりの視点をもって全庁横断的に保存活用の検討を進めていく。	
・博物館及び図書館における情報発信にあたっては、見やすいホームページのレイアウト構成等を検討するとともに、デジタル化した資料の公開を進め、本市の魅力発信の強化につなげていく。	

# 令和5年度 施策評価表(令和4年度決算評価)

施策名: 地域コミュニティ・学び  
 施策番号: 01 - 04

## 1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	04	スポーツに親しむ機会の充実
主担当局	教育委員会				

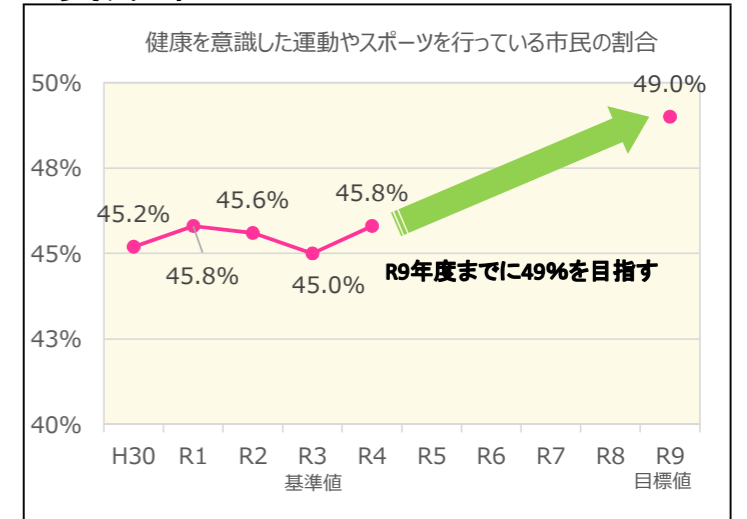
## 2 目標指標

指標名	方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
					H30	R1	R2	R3	R4
A 健康を意識した運動やスポーツを行っている市民の割合	↑	45.0	%	49.0	45.2	45.8	45.6	45.0	45.8
B 生涯スポーツ・レクリエーション事業参加者数	↑	5,202	人	11,000	9,330	10,862	4,144	5,202	6,614
C 学校開放利用者数	↑	537,279	人	690,000	736,569	689,939	561,705	537,279	687,560
D 地区体育館等利用者数	↑	345,060	人	364,000	388,179	363,379	266,686	345,060	335,781
E 誘致大会観戦者及び市民スポーツ大会参加者数	↑	31,928	人	69,000	69,407	68,728	27,011	31,928	47,240

## 3 主要事業一覧

令和5年度 主要事業名	
1	中学校地域部活動のモデル実施(課外クラブ関係事業費)
2	学校プール開放の廃止
3	
4	
5	
令和4年度 主要事業名	
1	立花体育館予防保全事業
2	
3	
4	
5	
令和3年度 主要事業名	
1	オリンピックを契機としたスポーツ推進事業
2	パラリンピック応援事業
3	
4	
5	

## 4 参考グラフ等



## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和4年度実施内容を記載)	
<b>【市民のスポーツ実施率の向上に向けた取組の推進】</b>	<p>(目的) 様々なスポーツ施策を通じて、健康を意識した運動やスポーツを行っている市民の割合の向上を図る。</p> <p>(成果) ①スポーツ施設を通常通り運営できたほか、「市民ウォーク」(169人参加)や「スポーツのまち尼崎フェスティバル」(延べ15,096人参加)等のイベントを再開し、スポーツへの機運醸成を図った。(目標指標A)</p> <p>②本市と連携協定を締結している「クボタスピアーズ」と協力し、無料観戦デー(77人参加)やバレーボール教室(57人参加)、交流試合(29人参加)を開催するなど、地域のスポーツクラブ等と協働した取組を行った。特にバレーボール教室参加者のアンケートでは「知っていたことがより深く理解できた。」など好評であり、「また参加したい」との回答が85.7%であった。(目標指標A)</p> <p>(課題) ①②施設利用者数等は回復傾向にあるものの、長引くコロナ禍で人々のライフスタイルが変化していることもあり、以前の水準には戻らなかった。こうした中スポーツへの意識を高めていくには、ライフステージに応じた取組を通じ、より多くの市民に参加してもらい、参加者がスポーツに親しむきっかけとなるよう、魅力ある内容とする必要がある。</p>
<b>【ライフステージや体力等に応じた生涯スポーツの推進】</b>	<p>(目的) 市民が気軽にスポーツやレクリエーション活動に参加できる機会と場の提供や、市立学校のスポーツ施設を開放することにより、市民スポーツの振興、市民の健康増進やコミュニティの形成促進を図る。</p> <p>(成果) ③市民に身近な運動と健康づくりの場を提供することを目的としたスポーツ推進委員が行う「さわやか地域スポーツ活動」では、前年度より663人多い3,554人が参加したほか、自主グループも形成された。(目標指標B)</p> <p>④スポーツ推進委員や学校開放運営委員会、スポーツクラブ21が連携する中で、親子を対象としたモルック体験教室を開催し、若い世代がニュースポーツに親しむ機会を提供した。(目標指標B)</p> <p>⑤学校開放は、通常どおりの利用ができ、コロナ禍以前より中学校及び特別支援学校の利用者が増加したこと、また、琴ノ浦高校の開放を開始したことなどにより、利用者が150,281人増加した。(目標指標C)</p> <p>⑥部活動の地域連携に向けたモデル事業として、市内14校に指導補助員を派遣した。今後取組を進めるに当たり、指導者と顧問・生徒との信頼関係の重要性が見えたほか、顧問の競技に係る学びの機会になるなど、当初想定していなかった効果も見られた。</p> <p>⑦本市における部活動の地域連携のあり方を協議するため、関係団体から成る協議会を設置し、課題の共有などを行った。</p> <p>(課題) ③④各事業で高齢者の参加者数が増加している一方で、子育て・働く世代の参加者数が伸び悩んでおり、親子スポーツ教室の開催を企画するなど、各スポーツ団体や学校等と連携し実施していく必要がある。</p> <p>⑤地域スポーツの拠点として、学校スポーツ施設の利用拡大に向け、より多くの市民が利用できるよう学校開放運営委員会等との連携を図り、子ども向けイベント・プログラムを充実させる必要がある。</p> <p>⑥⑦実施主体となるスポーツ団体等の整備充実や、指導者の質・量の確保策、大会参加、会費、保険、教員の兼職のあり方など、多岐に渡る課題がある。検討協議会での議論や、学校現場、保護者等の意見を丁寧に聴きながら着実に取組を進める必要がある。</p>
<b>【社会体育施設を拠点とする健康づくりの推進】</b>	<p>(目的) 地区体育館で実施する「健康づくり教室」事業などにより、地区体育館等の利用者数を増やし、市民の健康づくりや地域コミュニティづくりの促進を図る。</p> <p>(成果) ⑧スポーツ振興事業団と協力して「健康づくり教室」等の事業を行い、施設改修に伴う休館期間を除いた期間で比較すると施設利用者数は39,880人増加した。利用者アンケートでは、施設・接遇・講座内容の各項目で96%が「とても満足」「満足」という結果を得た。(目標指標D)</p> <p>⑨地域に根差した取組として行う「指導者派遣等事業」について、生涯学習プラザを中心に実施場所を増やすなど事業の拡大を図った。その中で、健康づくりに関する自主グループが形成されたほか、コロナ禍で人と接する機会が減っていた方が教室に来ることで楽しみが出来たといった評価を得られた。</p> <p>⑩サンジック尼崎及び立花体育館予防保全事業、(仮称)健康ふれあい体育館の整備に向けた取組を行った。</p> <p>(課題) ⑧社会体育施設では、市民ニーズに沿った魅力的な教室等を開催することにより一層の利用促進に取り組むとともに、そうした拠点や人材を活かすつ、あらゆる機会を捉えて、市民の健康づくりに対する意識高揚に資するよう、地域と密着した取組を進める必要がある。</p> <p>⑨健康不安を持つ高齢者が非常に多いことが分かってきた一方で、生活圏内に運動に親しむ機会に乏しい地域がある。</p> <p>⑩(仮称)健康ふれあい体育館の整備を着実に進めていくとともに、長寿命化改修が予定されている施設においては利用者への事前周知等を徹底し、休館を伴う場合には、供用再開後には再び利用されるような取組が必要である。</p>
<b>【各種スポーツ大会を契機としたスポーツの推進】</b>	<p>(目的) 各種スポーツ大会を契機として、市民のスポーツへの関心や参加意欲を高めることにより、本市のスポーツの推進と競技力の向上を図る。</p> <p>(成果) ⑪大会誘致では新たにT.LEAGUE(卓球)の誘致を行うなど10大会を開催し、観戦者は前年度より7,705人増加した。また、市民スポーツ祭やマスターズ選手権大会の参加者数は7,607人増加した。(目標指標E)</p> <p>(課題) ⑪市民の関心が高い大会の誘致に努めるほか、大会が競技の魅力を知るきっかけとなるよう、情報・魅力発信に努める必要がある。</p>

令和5年度の取組	
<b>【市民のスポーツ実施率の向上に向けた取組の推進】</b>	<p>①②「クボタスピアーズ」や「アサヒ飲料クラブチャレンジャーズ」といった、本市にゆかりのあるスポーツクラブと一層協力した取組を行い、市民が競技スポーツを身近に感じ、スポーツに親しむきっかけとなる取組を行う。</p> <p>①②スポーツ振興事業団が実施する「指導者派遣等事業」や、スポーツ推進委員による「さわやか地域スポーツ活動」など、地域に根差した取組を進め、継続的に運動やスポーツに取り組む市民の割合の向上を図る。</p>
<b>【ライフステージや体力等に応じた生涯スポーツの推進】</b>	<p>③④学校や地域振興センター等とも連携し、子育て・働く世代が参加しやすい休日のイベント等の開催を促進するなど、魅力ある事業の充実を図っていく。</p> <p>⑤学校開放の更なる利用促進について、市立学校に協力を求めるとともに、学校開放運営委員会及びスポーツクラブ21を主体とする子ども向けイベント・プログラムの実施を促し、利用者の増加を図る。</p> <p>⑥⑦運動部及び吹奏楽部における休日の活動について、地域主体で行う取組をモデル校形式で実施する中で、課題の洗い出しや対応策の検討及び検証を行う。また、検討協議会において、全校実施に向け円滑に進めていけるよう、地域部活動のあるべき姿について議論を重ねていく。</p>
<b>【社会体育施設を拠点とする健康づくりの推進】</b>	<p>⑧利用者ニーズをとらえた各種の講座や教室を実施するとともに、地域に密着した取組として、地区祭り等の地域の行事に積極的に参画する中で、市民の健康づくりの推進と地域コミュニティの形成に資する活動を行う。</p> <p>⑨いきいき百歳体操などの取組が行われている場を活用するなど、他施策とも連携しながら市民の健康づくりに向けた取組の更なる充実を図る。</p> <p>⑩(仮称)健康ふれあい体育館の整備に向け、武庫地区においては、令和6年度の供用開始を目指して着実に取組を進めていくとともに、今後整備予定の大庄地区においては、丁寧な市民意見の聴取を行っていく。</p>
<b>【各種スポーツ大会を契機としたスポーツの推進】</b>	<p>⑪T.LEAGUE等において、大会主催者と協力して市民割引を行うことにより、スポーツの魅力を感じて直接会場で体験できる機会を提供するなど、観戦をきっかけとして、スポーツへの関心や参加意欲を高めていく。</p>
主要事業の提案につながる項目	
<b>【ライフステージや体力等に応じた生涯スポーツの推進】</b>	<p>⑥⑦部活動の地域連携に向けた取組については、モデル校の検証や国の動向も踏まえつつ、学校現場や生徒・保護者の理解を得ながら進めていく。</p>

## 6 評価結果

評価と取組方針	
部活動の地域連携の取組については、モデル事業の効果検証を進めるとともに、国の動向も見据えつつ、学校現場や保護者・生徒の理解を得ながら丁寧に進めていく。	
本市を本拠地とするなど本市にゆかりのあるスポーツチームとは、スポーツに親しむきっかけづくりや運動機会の確保に向けて学校教育施策とも連携するとともに、地域活性化や経済活性化など幅広い視点で協働の取組を進める。	
スポーツ大会等の誘致については、大会を契機として市民のスポーツへの関心や参加意欲をより効果的に高めるために、馴染みのあるスポーツだけでなく、市民の関心が高い競技にも積極的に働きかける。また、大会実施による経済効果についても検証を進める。	